



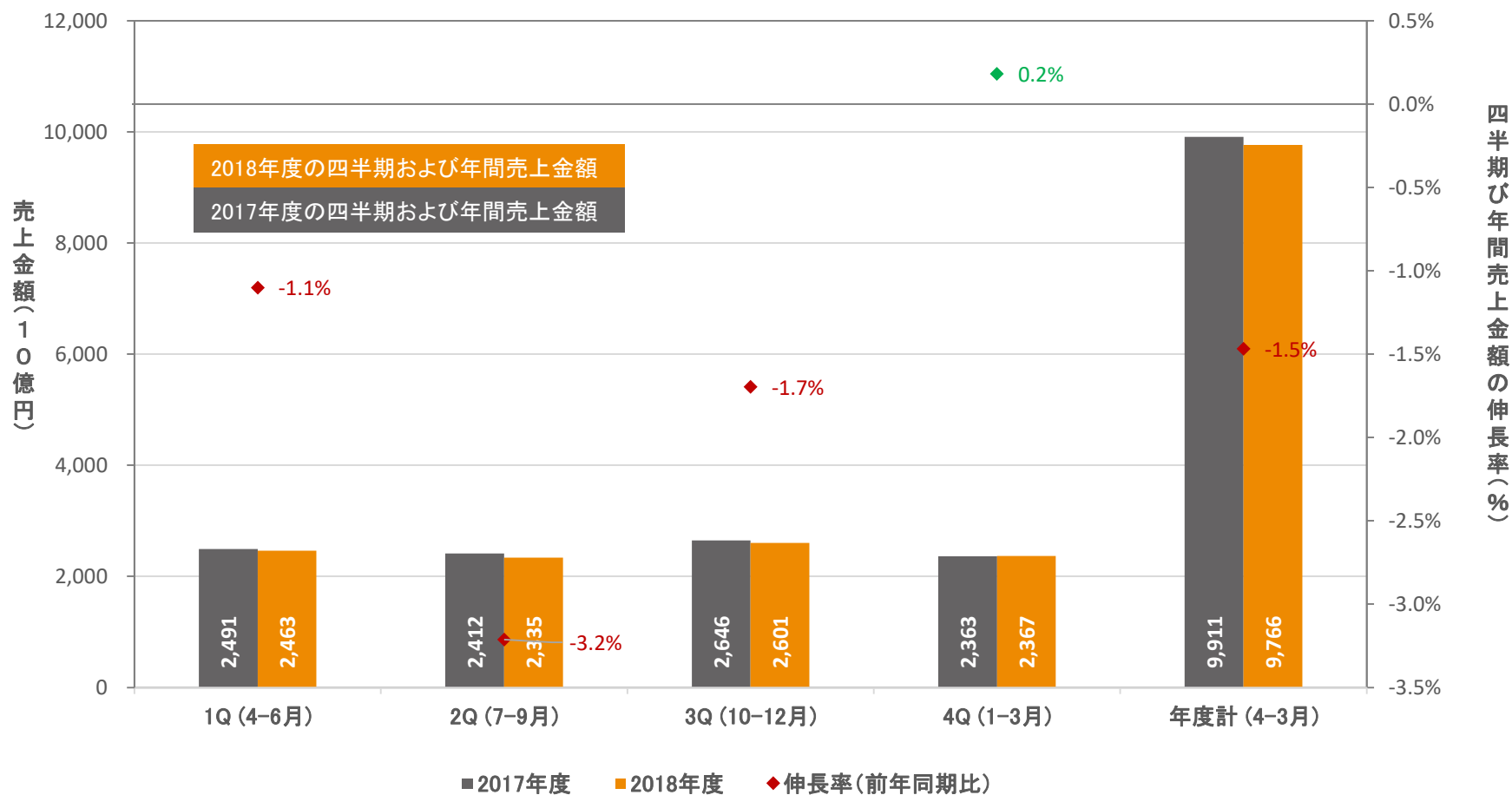
エンサイス スナップショットデータ

(薬価基準ベース)

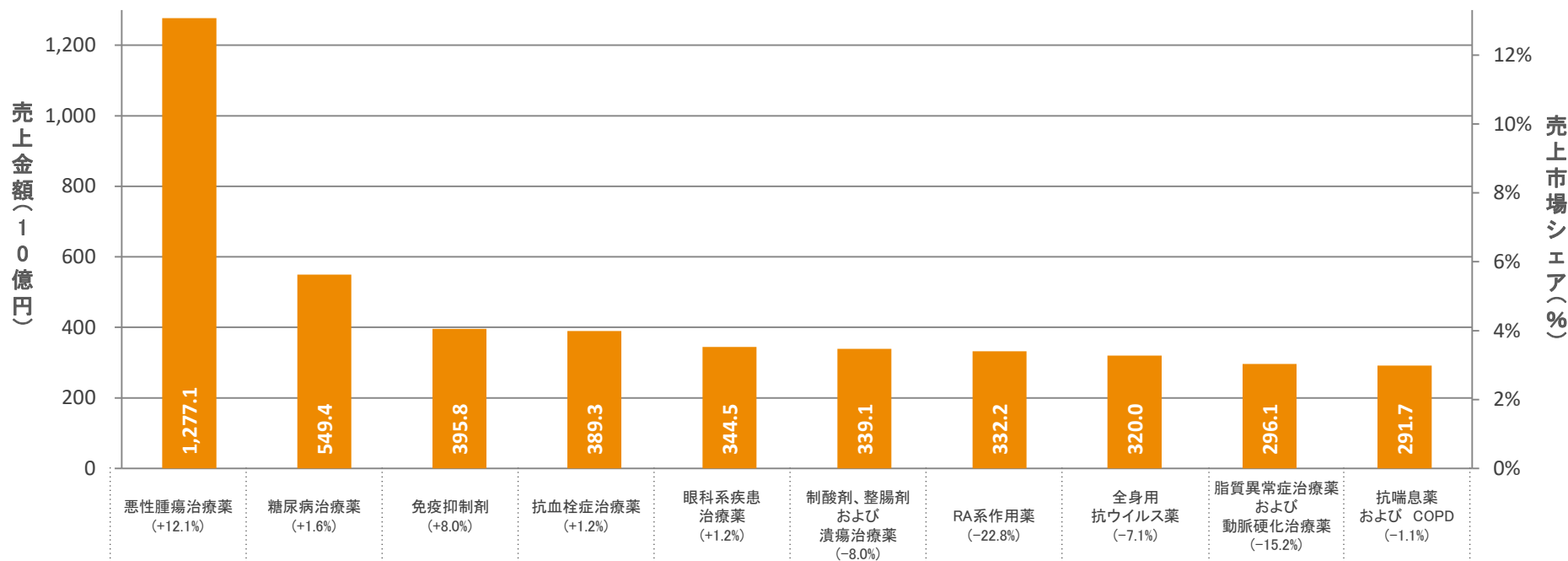
2018年度
(2018年4月 ~ 2019年3月)

本レポートは、当社が収集した医療用医薬品に関する情報を基礎としてエンサイスリサーチセンターで加工、編集又は推計を行ったものであり、
当社は本情報の正確性、網羅性、その他本レポートが一定の内容や品質を備えることを保証するものではありません。

2018年度医療用医薬品市場（四半期別実績及び年間合計）



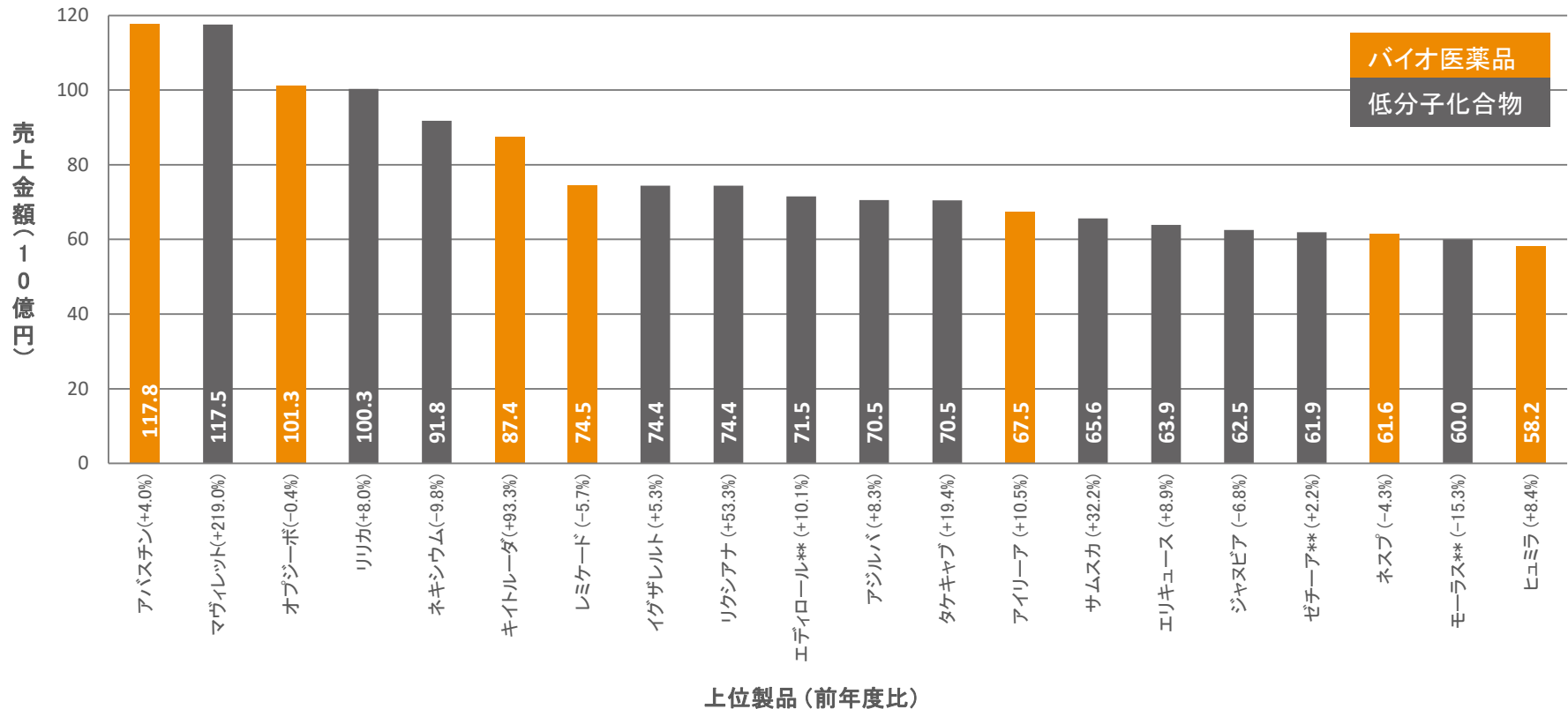
医療用医薬品売上上位10薬効分類



上位薬効分類(前年度比)

- 上位10薬効分類の年間売上金額は4兆5,353億円(前年度比約0.5%減)であり、医療用医薬品市場全体の約46.4%を占めている。
- **悪性腫瘍治療薬と免疫抑制剤合算**の市場規模は、医療用医薬品市場の約17%を占めており、二桁成長を続けている(前年度比約11%増)。当該市場は、ポテンシャルの高いグローバルなパイプラインを依然保有しており、今後も成長するものと思われる。
- **悪性腫瘍治療薬市場**は、**キイトルーダ**(年間売上874億円、前年度比93%増)、**イブランス**(年間売上256億円、前年度比569%増、2017年12月上市)、**タグリツソ**(年間売上495億円、前年度比68%増)、更に**テセントリク**(年間売上144億円、2018年4月上市)などの要因により市場伸長12.1%増となった。**免疫抑制剤市場**は、主力製品の**ステララ**(年間売上215億円、前年度比58%増)、**シンポニー**(年間売上466億円、前年度比19%増)、**ヒュミラ**(年間売上582億円、前年度比8%増)等が当該市場の伸長に貢献している。
- **制酸剤、整腸剤および潰瘍治療薬、RA系作用薬、脂質異常症治療薬および動脈硬化治療薬**の市場売上は、各市場における後発品等の影響もあり減少に転じた(前年度比16%減)。
- **RA系作用薬市場**は、**アジルバ**(アジルサルタン、武田薬品工業、年間売上金額705億円、前年度比8%増)を除くARBの大型品の特許切れが相次いだことによる後発品の台頭に加え、マイナス改定の影響が直撃したことで、ARB長期収載品市場だけで年間約1,146億円(前年度比49.3%減)喪失した。**脂質異常症治療薬市場**は、スタチン系領域に後発品が上市した為、当該市場規模は前年同期と比較した場合、年間売上では722億円減少し、前年度比42%減となった。

医療用医薬品売上上位20製品



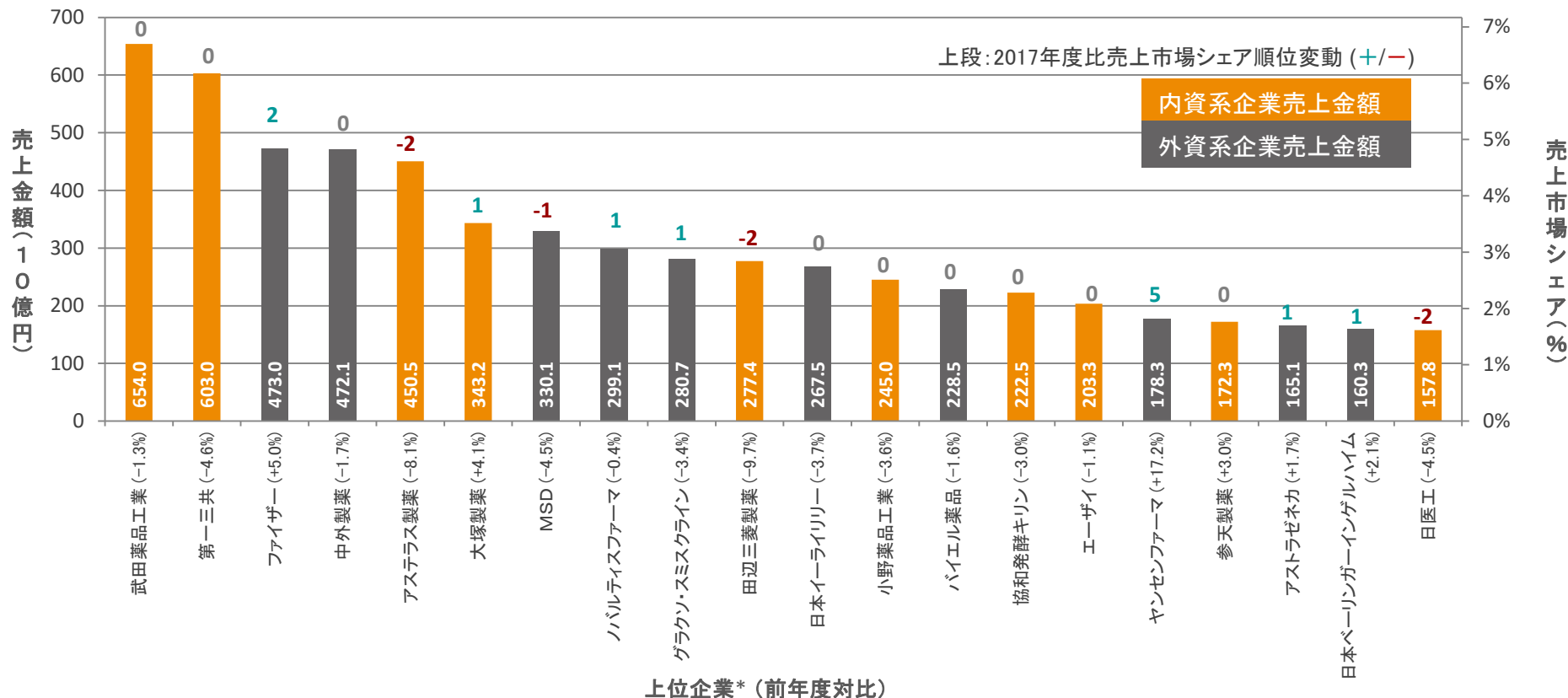
上位製品 (前年度比)

定義: バイオ医薬品 - 分子標的薬、生物由来製剤など | 低分子化合物 - 低分子医薬品

**同ブランドによる合計売上金額(局所用剤を含む)

- 2018年度の上位20製品の年間売上金額は1兆5,531億円であり、医療用医薬品市場全体の占有率は約15.9%であった。2017年度の上位20製品市場占有率14.4%と比較して1.5ポイント上昇しているが、これは主にマヴイレット(前年度比219%増)とキイトルーダ(前年度比93.3%増)の影響があったと考えられる。
- 2018年度に上位20製品入りした医薬品(前年度比): マヴイレット(219%増、2017年11月上市)、キイトルーダ(93.3%増)、リクシアナ(53.3%増)、サムスカ(32.2%増)、ヒュミラ(8.4%増)の5製品が新たに加わった。
- 2018年度に上位20製品から外れた医薬品(前年度比): クレストール(64.1%減)、サインバルタ(ほぼ横ばい)、リユープリン(6.1%減)、ヒルドイド(6.5%減)、メモリー(5.5%増)。

医療用医薬品売上上位20社



* 販売承認企業による売上高

- 2018年度の上位20社の年間売上金額合計は6兆1,839億円（前年度比2.1%減）であり、市場占有率は63.3%であった。2017年度の上位20社の占有率と比べて0.4ポイント減であった。
- 上位20社中、内資系企業10社と外資系企業10社の年間売上比率は約54:46（2017年度比率 約57:43）となり、内資系企業の年間売上金額は3兆3,291億円（前年度比8.0%減）、外資系企業の年間売上金額は2兆8,548億円（前年度比5.9%増）。
- 武田薬品工業と第一三共の上位2社の順位に変化はなく、上位20社中7社が順位を上げた（大塚製薬以外外資系企業）。その中に、ヤンセンファーマ（5ランクアップ、前年度比17.2%増、主にダラザレックスとザイティガによる）、ファイザー（2ランクアップ、前年度比5.0%増、単独販売に移行したゼルヤンツの新規売上と、イブランス、リリカの売上金額増による）もある。しかしながら、売上金額の面では、上位20社中14社が、マイナス成長となった。